

2012・8/1 No.9

岬の歴史館だより

戦中、戦後を振り返る

終戦後67年が経過し、戦中・戦後の出来事を伝えてくださる方々が少なくなってきました。今回歴史館では、できるだけ多くの方々に当時の様子をお聞きし、記録に残しておく取組みを次ぎのとおり開催いたします。ご家族で是非ご参加ください。

とき 平成24年8月19日(日)
時間 午後1時30分～3時
ところ 岬の歴史館 歴史教室

【講演】

「戦中・戦後の学校の様子」
【講師】 里中 長治(元孝子小学校 校長)

戦争体験の聞き取りも実施します。
協力 歴史館サポーター

ご参加される方は、事前に岬町教育委員会生涯学習課までお申込みください。

電話 492-2715 (直通)

fax 492-3100

メール shougaku@town.osaka-misaki.jp

* 生涯学習課(青少年センター)は、毎週月曜及び祝日は休館のため電話での申し込みはできません。

孝子地区夕涼み会開催のおしらせ

今年も歴史館で孝子地区の皆様の企画による夕涼み会が開催されます。各地域の皆様のご来場をお待ちしております。

とき 8月18日(土)
* 予備日 8月19日(日)

時間及び内容

午後5時 より・・・模擬店
7時 より・・・盆踊り
8時30分・・・抽選会
9時 終了(予定)

ところ 歴史館・孝子小学校運動場

岬の歴史館では、当日午後4時頃から7時まで「岬めぐり」(岬ライオンスクラフ製作)やアニメを放映します。

当日は運動場を使うため駐車場はありません。電車でのご来場をお願いします。



1800年代のはじめに正確な日本地図をつくったのが伊能忠敬です。

忠敬は、千葉県九十九里町に生まれ、18歳の時に酒造家伊能家の婿養子となりますが、彼が伊能家に来た時、家業は衰え危機的な状態でした。忠敬は儉約を徹底すると共に、本業以外にも、薪問屋を江戸に設けたり、米穀取り引きの仲買をして、約10年間で完全に経営を立て直し、1783年(38歳)の天明の大飢饉では、私財をなげうって地域の窮民を救済しています。こうした功績により幕府から苗字・帯刀を許されました。やがて50歳を迎えた忠敬は、家業を長男に譲り、興味を持っていた天文学を本格的に勉強する為に江戸へ出ました。50歳から「勉強の為に」江戸に向かう知識欲、知的好奇心の大きさは格別です。また、巨費を投じて自宅を天文観測所に改造し、日本で初めて金星の子午線経過を観測しました。

当時、外国の艦隊がやって来ても、幕府には国防に欠かせぬ正確な地図がなかったので、幕府は蝦夷地はもちろん、東日本全体を測量しても良いという許可を与えました。(ただ幕府の援助はなく、すべて自費。)

1800年(55歳)、忠敬は江戸を出発。

測量の方法は、歩幅が一定になるように訓練し、数人で歩いて歩数の平均値を出し、距離を計算するというものでした。目撃者の記録には「測量隊はいかなる難所もお通りなされ候」とあり、雨、風、雪をものともせず、海岸線の危険な場所でも果敢に突っ込んでいきました。昼は測量、夜は宿で天体観測し、両者を比較しながら誤差を修正、各数値の集計作業に追われたでしょう。忠敬は3年間をかけて東日本の測量を終えています。

その半年後、將軍家斉に東日本の地図を披露し、そのあまりの精密さに、立ち会わせた幕閣は息を呑んだということ。そして忠敬には「続けて九州、四国を含めた西日本の地図を作成せよ」と幕命が下り幕府直轄事業となりました。

1805年(60歳)、再び江戸を出発。今度の測量隊は時に100人以上になることもありましたが西日本の測量は、体力が衰え始めた忠敬には過酷でした。九州に入った忠敬が娘に出した手紙には「(10年も歩き続け)歯は殆ど抜け落ち一本になっってしまった。もう、奈良漬も食べることが出来ない」と書かれています。

そして、1815年2月19日、最終測量地点の東京・八丁堀で、忠敬はすべての測量を終えました。時に忠敬70歳。彼が15年以上かけて歩いた距離は、実に4万キロ、つまり地球を一周したことになります。

その伊能忠敬が歩いた道が岬町にあります。文化2年の第5次測量で、東海道から伊勢・紀伊から北上して測量しています。

8月13日に加太浦を出立、後手は加太浦から小嶋浦まで、先手は小嶋浦から谷川浦と深日浦の境界まで測っています。同日に谷川の庄屋戸口市左衛門宅に宿泊し14日は雨のため逗留。夜間晴れたので、天体観測をしています。翌15日午前6時頃に出立して後手は谷川浦と深日浦の境界より淡輪浦まで、先手は淡輪浦から尾崎村まで測って、加ヶ所御坊で宿泊しています。



長松海岸付近